

あさぎ



(財) 日本野鳥の会三重県支部
1994年5月 第5号

ズグロカモメがいた干潟

市川美代子

先日のテレビで初めて知ったことがあります。勉強不足か、知ろうとしなかった私は、ズグロカモメについてテレビを見て気がついたのです。

今まで私はズグロカモメについて、ユリカモメとそっくりだけど、くちばしが黒色で足も黒っぽい冬鳥で、単にカモメの一種ぐらいにしか思っていないでました。テレビで見たズグロカモメのエサの捕らえ方はワシやタカの猛禽類の狩りを思わせました。干潟の上を飛びまわり、獲物を捜し急降下して干潟上に降りて捕らえる。ズグロカモメのエサの捕り方は他のカモメとは違う独特のやり方で、主なエサは干潟の小動物のため、干潟のカニなどにとっては恐ろしい敵である。世界中で2、

000羽だけしかいなく、渡り鳥で春には中国に渡るということでした。繁殖地はどこかはテレビでは言っていなかった。私は本を見てみたが、不明となっていました。

ズグロカモメを私が見たのは1991年1月27日、工事が始まった田中川河口でした。その時は時間がなくちらっと見ただけでした。その後ズグロカモメがなぜ一羽だけ田中川河口にいたのか、知ろうとせず、今日まで来たのです。ズグロカモメは干潟がなくては生きていけない。もう今の田中川河口ではズグロカモメと会うことはないでしょう。なぜそこにその鳥たちがいるのか？これからはもう少し考えてみたいと思います。

オジロワシ、オオワシ、メジロと梅の花

NAO(NIFTY-Serve JBA00013)

紀伊長島の東さんにオジロワシとオオワシの情報をいただき、海山町の白浦に出かけた（自分の住む町内ですから出かけたというほどのこともないのですが）時のことです。

正月に情報をいただいてから、この場所へは何度も足を運んでいるのですが、姿は見せてもらえません。東さんに「津のかたが見に来られたときにはオジロワシもオオワシも確認して帰ったよ。一日中待つ覚悟でいかないと！」とハッパをかけられます。やっぱり私は根気が足りないのでしょうか？

オジロワシ・オオワシがでる場所は、前方の海上に養殖いけす、そのずっと先に紀伊長島・錦の海岸線、ずっとずっと先に志摩半島が見渡せます。後ろはすぐに山。その山の麓に小さな畑があり、梅の花が咲いています。

待ちだしてから約2時間、待望のオオワシが右手の山裾から姿を現せました。「ヒューー・・・でっかい！」2年前にミサゴを追っていたオジロワシを見たときも、その大きさに度肝を抜かれたけど、こいつはまたすごい、と感激したのもつかの間、30秒で山の陰に隠れてしまいました。

また、待ちの状態になりました。すると、後ろの梅の花のなかでメジロが鳴いています。

「しめた！」待ちに待った光景にこんなところで会えるとはと、忍び足で梅に近づき、思う存分メジロにモデルをしてもらいました。その後、1時間半くらいしてオジロワシも海上に姿を見せてくれました。てなぐあいで、ずっと待ち続けたワシも見られたし、梅とメジロの写真も撮ることができた一日だったので、フィルムの実像があがってきて・・・

露出がうまくいってなかったのです(^_^;)。梅の色に引っ張られメジロがアンダーに写っていました。しかし、梅は桜と違って1週間では散りません。当然翌週も挑戦です。翌週は、梅は二重丸、天気は三角。でも雨が降らなっただけよしとしましょう。メジロも期待通りモデルになってくれました。その中に、やっと満足のできるのが1枚ありました(^_^)。



日本のわがまま

藤本 幸也

平坦部の田園と山の畑が接するあたり、いわゆる里山のひんやりした朝の空気のなかでホオジロの囀りを聞くと、ほくは春にときめく。ヒバリの鳴くレンゲ畑があれば、もっと良いし、キセキレイの家族を養う井溝があれば、この上ないと思う。さらに欲張るなら、水田にはキアシシギがいて欲しい。

夏の夜はヨタカとヒクイナの声聞きながらビールでも飲みたい。月夜でも闇でも、蛙の合唱がもり立ててくれるだろう。8月になったらセッカの上をタカブシギとシラサギに飛び交ってもらいたい。道端にはキリギリスがいい。後半はキジバトの声で目覚めたい。

モズが静かになった梢はジョウビタキに任せればいい。夕暮れはケヤキの間から見たい。

冬の枯田はタヒバリとタシギで賑わしてもらいたい。朝より暖かい昼下がりの方が好きだ。里山の日溜まりで聞いたら、シジュウカラに限る。

日本のわがまますを届ける運送会社がある。

僕のこの些細な望みを聞き届けてもらうには、どれくらいの力が要るだろう。井溝がきれいなままである為には、水を供給する広大な山林がいる。溝の管理は大変だろうな。里山が里山であり続けるには、炭火の文化か、木炭のガス電力の文明を持ち込まないとどうにもならないような気がする。水田と畑を保持するには農産物の逆ざやし方法がないと思う。地力増進のレンゲ畑となると、米の作付け日程からして、相当な休耕保証もいる。千葉では36ヘクタールのレンゲ畑を観光の為に町が作ったと聞いた。僕のレンゲ畑1反ではヒバリは見向きもしない。伊勢のはずれの農村だというのに沈黙の春がすぐそこまでやってきた。今年は蛙の声が車の音に負けてしまった。少し静かになった明け方に、かすかにウグイスとヒクイナの声が聞こえる。どうやら日本ゼネコン殿にお願いするしか、僕のわがまますは叶えられそうにもない気がする。

野鳥展を見に行つて

三村 祥子

父と母と3人で3月20日、松阪の野鳥展に行きました。そこには野鳥の写真、ビデオ、本物の鳥の重さくらべ、アンケートやクイズ、230羽の中から30秒でトビとモズとムクドリをさがすコーナー、そしてブローチ作りのコーナーがありました。

ちなみにクイズは80点でした。テグスの長さを当てるのが一番むずかしかったです。テグスにからまって死んだムクドリの写真があったので、とてもかわいそうだと思います。それぞれ、あまり場所が広くなく、おもしろいコーナーまでが狭かったので、その点が「うーん」と思う所です。しかし、写真のコーナーとブローチが作れるコーナーは広かったです。写真もキレイなものばかりですごいなーと思うのですが、やはり、ブローチを作るコーナーが1番でした。初心者でも手軽にチャレンジできるし、指導してくれる方々もやさしいし、とてもかわいいキーホルダーのような物も作れます。また、鳥の形をし

たブローチもかわいいです。壁には、今までに作った鳥が、飾ってあって、みなさんはそれをモデルに描いているようです。私たちはキーホルダーよりもブローチにしました。見本はみんなかわいく、目移りしてしまいそうです。でもなんとか決められたので、まずは一安心というところ。作ることに決めた野鳥は、父・・・ヤマセミ♂？、母・・・カワセミ♀、私・・・オシドリ♂。

苦勞した所はいろいろな色を使い、混ぜあわせなければならぬところがとつてもた・い・へ・ん。で、やっとできました。お父さんや、お母さんもうまかったけれど、私のも思ったより上出来でした（自分でいうのもなんだけど・・・）。このブローチ作り、とつても楽しいので、また、行ってみたいです。初心者の方も本当にかんたんにできるのでぜひ一度行って見たらどうでしょうか。手作りはいいですよ。

三重の野鳥展裏方の記

荒木 茂

三重の野鳥展が下記の要領で実施された。

日 時：平成6年3月19日（土）13:00～17:00
20日（日） 9:00～17:00
21日（月） 9:00～15:00

場 所：松阪中央公民館
主 催：三重県、日本野鳥の会三重県支部
後 援：松阪市教育委員会

3月19日午後1時の開場を目標に午前8:30中央公民館に到着すると、すでに役員の方々を始めとして、15、6名のメンバーが会場設営のために集まっていた。中央公民館の1階ホールは、中央に太い柱が2本あるだけで、ガラんとした広間である。さてどのように仕切ってゆくのかと思ひめぐらしていると、若いリーダーの方々は要領よくここに間仕切りを置いて、ここにビデオの機械を置いてと、うまく計画されて設営は進んでいった。

○間仕切りパネル

パネルの継ぎ合わせは、初めての仕事だったので要領がわからず、いくら力んでもなかなかパネルがはずれず、大汗をかいたすえ、継ぎ合せ部分をよく見ると切り込みの中央部分が大きな穴になっていて、簡単に接合、取り外しができるようになっていた。

○写真

次は写真の展示である。水辺の鳥、山野の鳥、庭先に来る鳥と一定のルールの下に、グループに分けて写真パネルを取り付けた。メジロなどは山の鳥でもあるが庭先にも来るし、結局庭先に来る鳥のグループに入れた。写真を取り付けたあと、別の袋に入れてあった鳥の名前のプレートを正しくその鳥の写真の下に表示しなければならない。ヒヨドリ・ムクドリ・ヒレンジャク・ジョウビタキなどの常連さまはすぐわかるけど、センダイムシクイとオオヨシキリはどっちがどっちだか勉強不足でよく解らない。葦の枝に止まっているからこれはオオヨシキリに違いないと状況判断で名札を取り付けた（でも皆さんご心配なく、全部取り付け終わってから、エキスパートが監修してくれましたから）。それにしても三

重県支部のメンバーの写真の上手なこと。数ある写真の中の選り抜きの作品であろうが、どこに出しても恥ずかしくない作品揃いであった。

○シロチドリのビデオ

会場の中央に三重県の鳥”シロチドリ”を紹介するビデオとイスが置かれてあって一日中ビデオを流していた。よくまとめてあって、シロチドリのPRとして格好の教材であった。開場を回っていて、ちょっと一休みするには丁度良い場所で、一日中人を集めていた。2日目の朝、ビデオをスタートするべくスイッチを押したが、テレビの画面に画像が出てこない。テレビ/ビデオスイッチをビデオに切り替えたが全然反応がない。おかしいなあーと言っていると、「コンセントが抜けていますよ」と中村さんが言った。柱の向こう側で見えなかったけれど、電源が入っていなければだめなはず。ところがそれでも映像がでない。おかしいな一何故だろう、機械の故障かなと思ひながら「谷本さん、ビデオおかしいですよ」と言うと、「どれどれ」と言いながら、ちょいちょいとそこらを当ってから、「あ！これはテープが入っていないよ」で一件落着。

○三重県支部のワッペン作り

世古口さんがエナガ、カワラヒワなど4種類の図柄を自分でデザインして、ワッペン作りの道具一式も関係先から借りてきて、ワッペン作りのコーナーができた。個人名の入ったオリジナルワッペンが作ることができて、好評でした。

○鳥のキーホルダーとブローチ作り

今回の展示会のメインイベントの一つに、

今村さん指導のキーホルダーとブローチ作りがあった。直径5センチ程度の木を輪切りにして、艶出し加工した素材の上に各自が好みの鳥を絵の具で描き上げてキーホルダーに仕上げる。シジュウカラ、メジロ、カワセミなど20～30種類の見本がパネルに展示してあったが、どれも惚れ惚れするほど上手に作ってあって、これなら売りに出したら結構商売になるなあとと思われる出来栄であった。会場では多くの会員も、キーホルダーやブローチ作りに取り組んでいた。あなたも「作ってみては」と勧められたが、ついで絵筆など持ったこともないので、こんなことなら普段から少し練習しとくんだったと思いながら、次のコーナーに進んだ。

○野鳥の観察、探鳥会

20日と21日、10時から会場のすぐ前にある松阪公園で探鳥会のデモンストレーションが行われた。松阪公園は城の建物はないが、立派な石垣が残っていることで有名な松阪城の遺跡を中心とした公園で、季節移動する鳥たちの中継地としていろいろな野鳥が見られる好適地である。20日の探鳥会では杉浦支部長はリレハンメルで優勝した選手のように、野鳥の会三重県支部の小旗を首筋に差して先頭に立ち、夕刊三重が知ったら喜びそうなパフォーマンスであった。

○参観者

21日午後3時前、もうすぐ閉会という時間に、女の人が忙しそうに自転車で会場に来た。顔を見ると、地区の交通安全映画や指導説明会で時々見かける、若い背の高い婦人警官人であった。警察とは一般に、規則、規則で明け暮れ、野鳥などには無関心であろうと考えていたけれども、こうして自分から忙しい時間に都合をつけて見に来てくれたのならもっと野鳥について知ってもらいたいと思った。関心がなければ、鳥といえばスズメ、カラスだけで、あとはどんなに珍しい鳥がいても、鳥というだけではつまらないじゃないですか、もっと鳥について知りたいとは思いませんか？と婦人警官に話しかけた。鳥のことをもっと知ったら、あなたは若いんだから、人生はもっと多彩なものになりますよ。機会を見つけて探鳥会にも参加しませんかと伝えた。

○終わりに

3日間の野鳥展を通じて参加者は延べ408名で、この種の展示会としてはまあ満足すべき結果であった。松阪市での展示会開催に当たっては、関係官庁のご協力とご支援に感謝するとともに、この展示会を計画、準備、実行した役員と会員の皆さん、ご苦労さまでした。

五十鈴川公園の探鳥会

杉浦邦彦

- ・日時：平成6年3月6日午前9時30分から正午まで。快晴。冷える。
- ・場所：伊勢市宇治浦田バス停留所集合→五十鈴川右岸を南へ行き、新橋、神宮司庁事務所の横を通って内宮神苑の散策路を利用し、風日祈宮橋へ行く。続いて、内宮神域殿、参集殿を通り、宇治橋内見張所前で解散。距離約2km。
- ・参加者：40名（新人が目立った。）
- ・まとめ：どういうわけだったのか、集合時刻の案内が、午前9時と午前9時30分の二つの情報が流れ、早くから集まった人には申し分けなかったが、9時半から始めることにした。

途中では次のようなことを解説しました。

- ①五十鈴川には最近、カワウが生息するようになり、コサギ類が浅瀬、カワウが深みで採餌するため、うまく共存しているようです。さらに、五十鈴川沿岸部の「ふるさとの川」づくりで、見かけだけの景観を主体とした河川改修で、沿岸付近のヨシやネコヤナギ類、護岸のかくれ場所が少なくなり、小魚などを鳥たちがやすやすと捕獲してしまうので、魚などの淡水生物が極端に少なくなっています。
- ②このところ内宮の森にドバトが見られるようになり、自然環境が悪化している様子が

- うかがえます。
- ③ハシボソガラス、ハシブトガラスが増加していることは、②と同様の傾向を示すものと思われま。
- ④今年、冬鳥の越冬が少ないのですが、最近になって、彼らは丸々と太り、ツグミ、シロハラ、トラツグミが目立ち始めてきました。これは春がやってきた証拠です。
- ⑤イカルチドリが、五十鈴川の上流で見られるようになったのは、下流部の砂洲が河川改修で消滅したため、繁殖には至っていません。
- ⑥ヤドリギが沢山あるのは、レンジャク類が実を食べてその種を散布するので、ヤドリギの生育や分布を観察すると、レンジャク類の分布範囲がわかります。
- ⑦内宮の森のヤマガラとシジュウカラは鳴き声で区別することが困難ですから、必ず姿を確認しなければいけません。
- ⑧河川改修をされたため、カワガラスを見る機会が少なくなりました。

- ⑨伊藤さんが、ムササビの糞を見つけ、このあたりにムササビが生息していることを解説してくれました。

観察記録は下記の通りです。

カワウ、チュウサギ、コサギ(*)、アオサギ、トビ、ノスリ、イカルチドリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、イソヒヨドリ、トラツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

(*コサギの中に、くちばが黄に近い灰色をしており、眼とくちばしの間が少し青みがかっている個体がありました。カラシラサギではないかと思いましたが、今一つはっきりしませんでした。

短歌投稿

廣 八太郎

- この冬に初飛来せしヒドリガモ
岸辺に上がり小草食みをり (4月12日の観察ではいませんでした)
- アオサギの鋭さ見たる池の面に
大きすぎたる鮒を落としぬ (勾池のアオサギがくわえ直して落してしまいました)
- 日々かはる山の彩りつやめきて
春の香のたつ山里に住む (生きていることの幸せを満喫しています)

探鳥会報告

○亀山水曜探鳥会

- ・日時：1994年2月16日(水) 晴風強し 09:20~11:45
- ・担当：楢原泰
- ・参加者： (以上4名)
- ・観察種：カイツブリ、コサギ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、バン、キジバト、アオバト、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上28種)
- ・メモ：「ツグミの動き」として地上での行動を見る予定だったが、ほとんどがハゼの実を食べに来た姿だけで、計画倒れとなった。しかし、シロハラの行動はじっくり観察できた。

○伊坂ダム（四日市市）平日探鳥会

- ・日 時：1994年2月22日（火）雪（雪のため中止しました。）

○愛知三重合同木曾岬・鍋田干拓地探鳥会（第12回）

- ・日 時：1994年2月27日（日）晴 10:00～14:30

- ・担 当：藤田克三

- ・参加者：

（以上15名、愛知から21名）

- ・観察種：カワウ、ゴイサギ、アオサギ、コガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、トビ、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウ、チョウゲンボウ、キジ、ケリ、タゲリ、エリマキシギ、オオハシシギ、オオセグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、メジロ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上32種）
- ・メ モ：今回で丁度12回目の合同探鳥会。朝から風が強かったが、空はよく晴れていたためか、鳥は32種。参加者は36名で、一人1種の割で見られたので、今後、参加者が増えると鳥種も増えるのではと思った（そんなアホナー）。昼食後、名古屋市野鳥観察館で、森井さんのスライドと解説で、ワシタカ識別の講座があり、有意義な一日だった。

○亀山金曜探鳥会（亀山市椿世=つばいそー亀田ー椿世）

- ・日 時：1994年3月4日（金）晴後曇 09:00～12:30

- ・担 当：楢原泰

- ・参加者：（以上2名）

- ・観察種：ダイサギ、コジュケイ、ケリ、イソシギ、タシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上30種）
- ・メ モ：今日は小鳥がよく鳴いているのでノスリは出ない、と言っていたらそのとおりとなった。

○三重野鳥展松阪公園探鳥会

- ・日 時：1994年3月20日（日）曇 10:00～11:00

- ・担 当：中村洋子、宮田たつ

- ・参加者：

（以上20名）

- ・観察種：トビ、コチョウゲンボウ、キジバト、ツバメ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、メジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上20種）
- ・メ モ：「三重の野鳥展」（松阪中央公民館）松阪公園観察会として催しました。短い時間でしたが、イカルが私たちの行くところへ何回も出て、ゆっくり見ることができました。また、ツバメも飛んで「今年になって初めて」という人がたくさんいました。

○三重野鳥展松阪公園探鳥会

- ・日 時：1994年3月21日（月）晴 10:00～11:00

- ・担 当：中村洋子、宮田たつ

- ・参加者：

（以上20名）

- ・観察種：トビ、キジバト、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、メジロ、カワラヒワ、

イカル、シメ、スズメ、ハシボソガラス（以上13種）

- ・メモ：公園の石垣の修復のため、たくさんの木が切られ残念に思いました。昨日はイカル、今日はシメ、ビンズイをゆっくり観察できました。

○篠田山（松阪市）平日探鳥会

日時：1994年3月24日（木）晴 09:30～12:00

担当：中村洋子、宮田たつ

参加者：

（以上10名）

観察種：カワウ、カモSP.、トビ、キジ、サギSP.キジバト、コゲラ、ツバメ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、トラツグミ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上23種）

- ・メモ：松阪ケーブルテレビの取材があり、一緒に回りました。以前の探鳥会（2月6日）に見つけたコゲラの巣穴は大きくなっていましたが、使っているのかどうかはわからなかった。トラツグミが明るいとこへ出てきてエサを探していた。近くにキツネが現われ、人を恐れる様子もなくゆうゆうと歩いていました。

○愛知三重合同木曾岬・鍋田干拓地探鳥会

日時：1994年3月27日（日）晴 10:10～12:00

担当：藤田克三

参加者：

（三重から以上10名、愛知10名）

観察種：カワウ、ゴイサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、アメリカコガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、トビ、オオタカ、ノスリ、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、キジ、コチドリ、ケリ、タゲリ、エリマキシギ、オオハシシギ、イソシギ、タシギ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上38種）

- ・メモ：朝からよい天気にも恵まれた探鳥会であった。三重、愛知とも他の観察会と重なっていたが、20名の参加者があった。鳥の方もオオタカ、ノスリ、ハイイロチュウヒに加え、いま鍋田で話題のエリマキシギ、オオハシシギがいつものように仲良く並んでエサを食べているところを観察でき、またウグイスの声も聞かれて楽しい探鳥会でした。

○亀山第1金曜探鳥会

日時：1994年4月1日（金）晴後曇り 09:00～12:15

担当：楢原泰

参加者：（以上2名）

観察種：コサギ、アオサギ、ハヤブサ、コジュケイ、キジ、ケリ、タシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上33種）

- ・メモ：高和義さんが出席されなかったら、一人だけの探鳥会となるころだった。高いところで、ハヤブサとハシブトガラス3羽の空中戦を垣間見た。

○田丸城（度会郡玉城町）探鳥会

日時：1994年4月8日（金）晴風強し 09:30～12:00

担当：西村泉

参加者：

(以上12名)

- ・観察種：トビ、サギSP.、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ビンズイ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上21種)
- ・メモ：桜が満開の田丸城であったが、石積み工事のため別のコースを歩いた。わずかに自然が残された田んぼ沿いの小道。観察できた小鳥は少なかったがスマレのお花見も楽しめた。

○亀山（亀山市）水曜探鳥会

- ・日時：1994年4月13日（水）晴 09:20～11:45
- ・担当：楢原葵
- ・参加者：

(以上11名)

- ・観察種：カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、コサギ、コジュケイ、パン、ケリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上25種)
- ・メモ：今日のテーマは「ペアの観察」であった。ペアとしては、キジバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ホオジロを見たが、スコープを向けるとどの種もれもすぐ逃げて、はっきりと観察できなかった。シジュウカラとホオジロのさえずりをじっくりと聞くことができた。

○愛知三重合同木曾岬・鍋田干拓地探鳥会

- ・日時：1994年4月24日（日）晴 10:00～12:00
- ・担当：藤田克三
- ・参加者：

(以上16名)

- ・観察種：カワウ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、スズガモ、チュウヒ、キジ、ケリ、クサシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、ユリカモメ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、セッカ、オオルリ、ツリスガラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上33種)
- ・メモ：昨夜からの雨も朝には晴れ上り、木曾岬干拓地内ではウグイスの声とオオルリ、ツリスガラが見られた。

○松阪公園（松阪市）平日探鳥会

- ・日時：1994年4月28日（木）小雨のち曇 9:30～11:30
- ・担当：中村洋子
- ・参加者：

(以上6名)

- ・観察種：キジバト、コゲラ、ツバメ、ビンズイ、ヒヨドリ、アカハラ、ツグミ、メジロ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス (以上13種)
- ・メモ：小雨だったので始めました。ビンズイが枝に止まり羽づくろいに夢中で、近づいても知らん顔だったので、その様子をゆっくり観察できました。きれいなさえずりが聞こえたので、声の方へ行ったら、それはビンズイだった（このさえずりがなかなか覚えられません）。

○多度峡（桑名郡多度町）探鳥会

- ・日時：1994年4月29日（日）晴 9:30～12:00
- ・担当：藤田克三
- ・参加者：

(以上22名)

- ・観察種：トビ、ノスリ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオルリ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上21種)
- ・メモ：初めての探鳥会とあって、どうなることやらと思っていましたが、22名の参加者がありました。イカル、オオルリの声を堪能した探鳥会でした。

○亀山(亀山市)第1金曜探鳥会(椿世-亀田町)

- ・日時：1994年5月6日(金)曇りのち晴 09:00~12:15
- ・担当：楢原素
- ・参加者： (以上7名)
- ・観察種：カワウ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、カルガモ、コジュケイ、キジ、イソシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、センダイムシクイ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上28種)
- ・メモ：カワセミの飛ぶ姿を上からも下からも見た。夏になって、これだけ種類の鳥が見られて大変うれしい。

里子探鳥会報告

○ツバメ初認	3月21日	伊勢市五十鈴川	吉居瑞穂
〃	4月01日	四日市市桜町	加藤征甫
○サシバ初認	3月28日	伊勢市自宅上空	吉居瑞穂
○ジョウビタキ終認	4月4日	伊勢市自宅	吉居瑞穂
○ツツドリ	4月5日	菰野町お庄玄関前の谷	岡崎正郎
○ホトトギス	4月6日	〃(以後、いつ行っても	〃
○カッコウ	4月9日	〃4種のどれかが鳴い	〃
○サンコウチョウ	4月9日	〃ていました。)	〃
○ヤツガシラ	4月9~10日	鍋田干拓地	米倉 静
○オオルリ初認	4月16日	伊勢市南側の山中の溪流	吉居瑞穂
〃	4月17日	北牟婁郡海山町	北川直人
○ツグミ終認	4月23日	自宅付近	吉居瑞穂
〃	4月27日	四日市市桜町	加藤征甫
○コアジサシ初認	4月29日	桑名市町屋川	藤田克三
○サンショウクイ	4月29日	四日市市尾平町	木村裕之
○センダイムシクイ	4月29日	四日市市尾平町	木村裕之
○ホオジロガモ	4月30日	木曾岬	米倉 静
○ジュウイチ	4月30日	弥富野鳥園	米倉 静
○キビタキ	5月2日	伊勢市自宅近くの山	吉居瑞穂
○サンショウクイ	5月2日	伊勢市自宅近くの山	吉居瑞穂
○イワツバメ	5月2日	伊勢市自宅近くの山	吉居瑞穂
○タカブシギ初認	5月2日	鈴鹿市磯津	鹿島素子
〃	5月6日	員弁郡東員町	水野明紀
○チュウサギ5	5月4日	四日市市桜町	加藤征甫
○アマサギ初認	5月4日	四日市市桜町	加藤征甫
〃	5月5日	員弁郡東員町	水野明紀
〃	5月6日	亀山市	楢原素
○キンクロハジロ	5月6日	員弁郡東員町	水野明紀
○フクロウ	5月6日	四日市市尾平町	木村裕之
○ビンズイ終認	5月7日	員弁郡東員町	水野明紀

木曾岬・鍋田干拓地合同探鳥会調査結果及び参加人員

1993~1994	月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
種名	日	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8
カイツブリ		○	○										
カウ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴイサギ			○		○		○		○	○			
ササゴイ						○							
アマサギ		○	○	○			○						
ダイサギ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
チュウサギ		○	○		○	○							
コサギ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アオサギ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カルガモ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コガモ		○	○					○	○	○	○	○	○
アメリカコガモ												○	
ヨシガモ												○	
オナガガモ									○	○	○	○	○
オカヨシガモ		○							○	○	○	○	○
ヒドリガモ		○											
ハシビロガモ		○							○	○	○	○	○
ホシハジロ		○							○	○	○	○	○
キンクロハジロ		○									○	○	○
ミサゴ									○	○			
ハチクマ									○				
トビ				○					○	○	○	○	○
オオタカ												○	
サシバ									○				
ノスリ									○	○			
ハイロチュウヒ										○	○	○	○
チュウヒ		○	○	○	○				○	○	○	○	○
ハヤブサ					○								
コチョウゲンボウ													○
チョウゲンボウ										○	○	○	○
キジ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
バン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コチドリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シロチドリ				○			○						
ケリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タゲリ		○							○	○	○	○	○
キョウジョシギ		○											
トウネン							○						
エリマキシギ											○	○	○
オオハシシギ											○	○	○
アオアシシギ											○	○	○
クサシギ		○							○	○			
タカブシギ		○											
キアシシギ							○						

1993~1994	月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
種名	日	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8
イソシギ		○	○						○	○	○	○	○
チュウシャクシギ		○	○										
タンギ		○	○						○	○	○		
オオジシギ			○										
ツバメチドリ							○						
ユリカモメ		○									○	○	
セグロカモメ													○
オオセグロカモメ													○
ウミネコ							○						
クロハラアジサシ							○						
コアジサシ								○	○				
キジバト		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コミミズク													○
ホトトギス			○										
カワセミ		○							○	○	○	○	○
ヒバリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ショウドウツバメ									○	○			
ツバメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハクセキレイ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セグロセキレイ		○					○			○		○	○
ピンズイ		○											
タヒバリ		○	○								○	○	○
ヒヨドリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モズ										○	○	○	○
ジョウビタキ												○	○
ノビタキ										○			
ツグミ		○	○									○	○
オオヨシキリ				○	○	○	○						
メボソムシクイ				○									
ウグイス													○
セッカ				○	○	○	○						○
シジュウカラ													○
メジロ													○
ホオジロ		○										○	○
アオジ													○
オオジュリン													○
カワラヒワ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スズメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ムクドリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシボソガラス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシブトガラス		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ドバト		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
計(86)		35	42	92	43	02	83	63	23	14	94	43	5
参加人員		18	16	19	14	23	23	63	24	12	33	4	


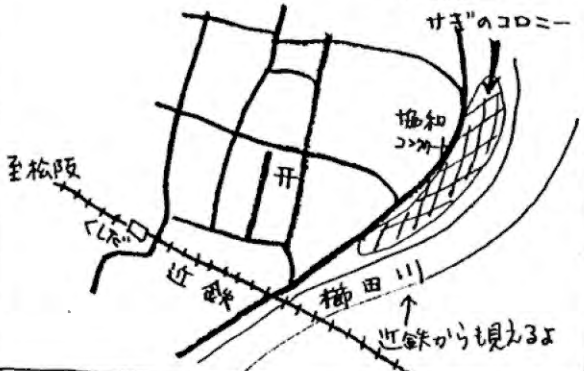
サンクチュアリ化要望のため、愛知・三重合同で行っている木曾岬干拓地の探鳥会は早いものでもう一年を過ぎてしまいました。4月からは藤田克三さんに担当が替わりましたが、今後も皆様のご協力、ご支援をお願いします。 水野明紀

「しろちどり」4号の訂正
 P.13 安濃川河口探鳥会
 参加者：宮本ハツ子（追加）

おすすめ！ 初夏のバードウォッチング・ポイント


サギのコロニー
(松阪市櫛田町)

アマサギ、コサギ、ダイサギ、ゴイサギ、カワウの繁殖が見られる。

至松阪
近鉄
櫛田川
↑ 近鉄から見えるよ

ホトトギスの声を聞くには…
(伊勢市勢田町ひもろぎの里)



鼓ヶ岳

少し山に入ると
オトリなどの
夏鳥に会える
かも……

ひもろぎの里
キャンプ場

伊勢自動車道
至外宮
伊勢
西ノ宮
蓮台寺
千寿台
伊勢本道路

カイツブリ、バンの子育て
(伊勢市大湊町)


埋立てされずに残っている池を見てみよう。
カイツブリやバンが子育てをしているよ！




海
川
堤防道路
西町
足徳
菟川金丸

夜の探鳥はアオバズク

- 6月になると宇治橋で、夜8時頃～
- あなたの近くの神社に
きているかもしれないよ…
- 7月16日(土)、二見町探鳥会
19:00、三交バス停“西”集合



ホッ・ホッ・ホッ…
夜の闇に耳を
すましてみよう

求む！ ツバメ調査員
伊勢市のツバメ調査に協力していただける方、連絡して下さい。 吉居まで



平成5年度「三重の野鳥展」来場者アンケート結果

野鳥展を開催したときに行ったアンケート調査の結果の一部を紹介します。(一部複数回答)

●アンケート回答者数	年 齢	会 員	非会員
	3歳～81歳	31人	178人

●展示の中で、どのコーナーがよかったですか？

①身近な鳥	84人	④三重県の鳥シロチドリ	21人
②水辺の鳥	83人	⑤テグスを捨てないで	21人
③野鳥のブローチ作り	64人		

●(財)日本野鳥の会をご存知ですか？	会 員	非会員
知らない	0人	9人
知ってる	0人	169人

●どんな会だと思えますか。	会 員	非会員
①自然保護団体	20人	105人
②野鳥を研究する会	10人	68人
③野鳥を見る趣味の会	9人	62人
④野鳥を飼う趣味の会	0人	3人
⑤その他	0人	1人
⑥未記入	9人	5人

●今後の企画についての希望

- ・この催しを続けてほしい
- ・山歩き探鳥会をしてほしい
- ・野鳥の保護を訴える企画や展示をしてほしい
- ・写真の種類を多くしてほしい
- ・生きた鳥がみたい
- ・ワシタカ類のハンティングシーンのビデオ上映を希望
- ・カスミ網の被害について知りたい
- ・探鳥場所を教えてください

●その他、ご意見があればお書きください

- ・保護に関した行動や企画がもっとあってもよい
- ・展示の写真に撮影時期が書いてあるとよい
- ・自然の大切なことがわかった
- ・写真がよかった
- ・たくさんの方がもっと野鳥や自然に関心を持てるとよい
- ・近くであれば、また見せてほしい
- ・一般からの写真やビデオの応募もしてはどうか
- ・若ければ入会したい
- ・ブローチの色付けがむづかしかった
- ・形と鳴き声がわからないので教えてください
- ・水辺などに、釣り針や釣り糸が捨てられているのが残念
- ・ご苦労さまでした

事務所のワークに参加してみませんか 高 和義

窓からの五月のそよ風が爽やかに頬をなで、室内では美女数人の笑い声が弾ける。事務局の仕事は忙しいが楽しい。「封筒を出して!」、「シールを貼って」、「パネルに写真を入れて、、、イヤ、入れ替えをして」、立っているものは親でも使え式で厳しい指令が飛ぶ。次から次へと仕事を進めているうちに時間がどんどん経ってしまい、お昼になってしまう。作業をしながら鳥の話や世間話を聞いて、いろいろな勉強になる。終わってから何を食べようかと相談するのも楽しみの一つです。皆さん、時間のある方は一週間に一度の事務所のワークに参加して下さい。毎週火曜日の午前10時からです。

会費等自動引き落とし利用申し込み書が必要な方は、事務局・木村()へご連絡下さい。

全国小鳥店・密猟地調査協力をお願い

- ・全国野鳥密猟対策連絡会（代表 八木 昭 氏）からのご依頼
- ・調査要旨

小鳥店調査――小鳥店の所在地、調査年月日

小鳥の名前、羽数、輸入証明書の有無

密猟地調査――春の渡り時期に密猟が行われている場所・日時（市町村名）

野鳥の種類、羽数

密猟の方法・道具など（カスミ網、とりもち、おとり、テープ）

密猟者の人数、車のナンバー

（注）メジロ、ウソ、マヒワ、ホオジロの4種のみ、愛玩飼育のための捕獲許可が出され、またこの4種も繁殖期（4～6月前後）は捕獲許可が出ません。

調査期間――どちらの調査も、1994年4月～6月

しめきり――1994年7月15日

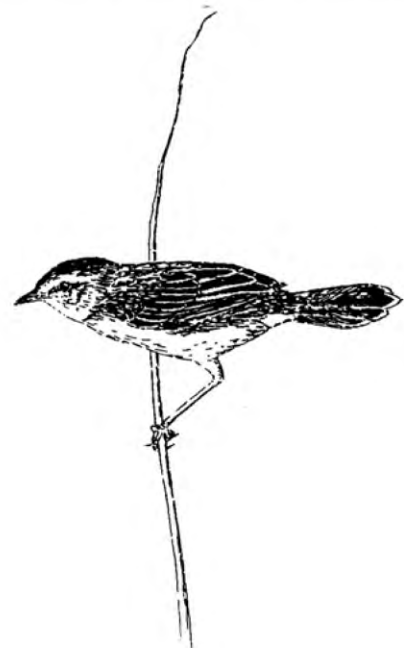
送り先――木村京子（調査用紙もありますので連絡ください）

三重県支部1994年度総会開催

三重県支部の1994年度総会が予定通り4月17日（日）午後1時30分より、津市の三重県勤労者福祉会館で開催され、以下の議事については、すべて承認されました。

議事

- (1) 1993年度事業報告及び活動報告の承認の件
- (2) 1993年度決算報告承認の件
監査報告
決算報告書及び会計監査報告参照
- (3) 1994年度事業計画案及び活動計画案承認の件
- (4) 1994年度予算案承認の件
'94年度予算参照
- (5) 役員の解任及び選任の件
解任
水野明紀（理事の辞任）
倉田英雄（理事の辞任）
選任
濱中勝彦（理事）



(6) 三重県支部規則変更承認の件

本部会費値上げに伴い、三重県支部規則第27条（会員）のうち「（1）正会員は本会会誌と支部報等を購読する会員で年会費6,000円（うち4,000円が本部へ）、入会金（初年度のみ）500円（本部へ）とする」を「（1）正会員は本誌会誌と支部報等を購読する会員で年会費7,000円（うち5,000円が本部へ）、入会金（初年度のみ）500円（本部へ）とする」とする。また、第31条（規則）に「改正）平成6年4月17日」を付け加える。

(7) その他

まつり博に、百五銀行グループがバードハウス館を企画しており、本部が映像部門を請け負うが、いろいろな点で問題があるので三重県支部は関与しない。などの報告

三重県支部のオリジナルステッカーの紹介

今村禎さんデザインのシロチドリの素敵なオリジナルステッカーができました。一枚300円です。探鳥会や野鳥の会の行事の時に販売します。収益はシロチドリの保護のために使います。数に限りがありますので、お早めにお求めください。



決算報告書

収支計算書 '93年3月21日から'94年3月31日まで

支 出	金 額	収 入	金 額
通信費	270,045	支部会費	654,850
印刷費	186,303	寄付金	112,860
会場費	20,060	受取利息	71,608
旅費	20,000	雑収入	22,335
消耗品費	74,101	販売益	87,612
光熱費	811		
交際費	9,454		
雑費	44,594		
支出合計	625,368		
当期剰余金	323,897		
	949,265		949,265

○総会終了後、交流会が開かれました。それぞれ相互紹介をしてから、楽しいひとときを過ごしました。

近況報告や野鳥情報など話題が尽きませんでした。残念ながら時間切れで解散しました。

会費500円×30人=15,000円
お茶、菓子代 14,912円
差額88円は募金箱へ

1994年度予算 (財) 日本野鳥の会三重県支部

収入の部	金額	支出の部	金額
支部会費 (¥2,000×280名)	560,000	通信費	329,000
寄付金		印刷費	150,000
受取利息	5,423	会場費	40,000
販売益		旅費	30,000
雑収入	20,000	消耗品費	15,000
受取委託費	300,000	光熱費	1,000
		交際費	10,000
		雑費	6,060
		予備費	150,000
計	885,423	計	731,060
		(次期繰越金)	154,363

編集後記

毎号のことながら、原稿の少なさに気をもみながら、発行月ぎりぎり、土壇場で皆さんに助けられています。第5号も綱渡りのような日々が続きましたが、ご覧の通り、見事に(?!)仕上がりました。

今回は、松阪で行われた三重の野鳥展という大きなイベントがあり、それに関する記事が載せられたことが一番の喜びでした。また、第2号で掲載した「南勢地区便り」が復活しました。今後毎号に掲載予定です。ご期待ください。皆さんの日常のテリトリーでのなにげない観察記録をお寄せください。貴重なデータになりますので。もうすぐ梅雨、その後の猛暑。それでも探鳥！それでも原稿！お願いしまーす！！次号(第6号)は8月下旬発行の予定です。

表紙絵 平井正志(ホオジロ)
 題字 濱田 稔
 カット 平井正志、鹿島素子

「しろちどり」第5号

1994年5月発行

発行者: (財) 日本野鳥の会三重県支部
 〒516三重県伊勢市

杉浦 邦彦 方

【事務局】

木村 京子 方

編集: 中村 誠

印刷: 館 印刷 〒510-13三重郡菰野町田口1903-3